

## 平成 30 年度 静岡市立高等学校 学校経営構想（全日制）

### I 教育目標

「質実剛健」の気風を継承し、校訓「正しく、強く、明るく」を基に、「文武両道」を目指し、地域社会や国際社会に貢献できる、調和のとれた創造的な人間を育成する。

### II 重点目標

生徒一人ひとりの自立（自分の力を発揮して人の役に立つ人間になること）に向かって、未来起点の思考と日常の凡事の徹底により、高校生活（学習、部活動、学校行事等）を通して、3つの資質・能力（自己有用感、視野の広さ、主体性）を、生徒一人ひとりが自ら育むように、教職員、保護者、同窓会、地域等が連携し、皆で支援する。

### III 具体的目標と全体の取組

#### 1 基本的な生活習慣の確立

- (1) 清々しい挨拶、品位ある身だしなみ 及び 正しい言葉遣いの習慣化
- (2) 心身の健康管理、清掃の励行 及び 規則正しい生活習慣の確立
- (3) 自他を尊重する心や態度、規範意識 及び 人権意識の向上
- (4) 読書の習慣化 及び 情報・学習センターとしての図書館の積極的な利用

#### 2 特別活動、部活動等への主体的な取組

- (1) 学校行事、HR活動 及び 生徒会活動への積極的な参加
- (2) 社会貢献活動（ボランティア活動）及び地域社会の人々から学ぶ体験活動の拡充
- (3) 部活動を通じた人間性、自主性・社会性 及び 個性・能力の伸長
- (4) 国際交流、海外語学研修、海外科学研修等を通じた国際感覚の伸長

#### 3 開かれた学校づくり、安心・安全な学校づくりの推進

- (1) 土曜授業の公開、ホームページ、学校案内等による積極的な情報発信
- (2) 防災教育、交通安全教育の推進 及び 危機管理体制の充実
- (3) 学校評議員による学校評価等、公聴活動を通じた教育活動の点検 及び 改善
- (4) P T A、同窓会等関係諸団体との連携による教育活動の推進
- (5) 職員のワークライフバランスに配慮した校内体制等の整備

#### 4 確かな学力の育成、学力保障の推進

- (1) 各教科担当教員の連携・協力による組織的な学習指導の徹底
- (2) スタディ・レコードの活用、生徒面談、適切な帰宅時間の保障等、家庭学習時間の確保のための学年・担任及び部活動顧問の連携による支援
- (3) シラバスの効果的活用及び学習評価の研究活動の充実
- (4) 授業アンケートによる授業評価の実施と活用

#### 5 これからの時代を生き抜く人材の育成

- (1) SSH 活動（探究活動）を核とした解決困難な課題に立ち向かうことのできる人材の育成
- (2) アクティブ・ラーニングを取り入れた授業等、魅力ある授業づくりの推進（授業公開、研究授業の実施）
- (3) 思考力・判断力・表現力の育成 及び 学習活動等のポートフォリオ化等による新テストへの対応
- (4) 次期学習指導要領の内容理解の推進及び対応の研究

#### 6 キャリア教育、進路指導 及び リーダー育成等の推進

- (1) 入学時初期指導の徹底 及び 3年間を見通したキャリア教育（新BFプラン）の実施及び検討
- (2) 課外学習、勉強合宿、模擬試験等の円滑な運営 及び 進路指導体制の確立
- (3) 生徒、保護者への進路情報の提供 及び 進路面接の充実
- (4) 地域社会、国際社会で活躍できるリーダーの育成 及び 主権者教育の実施

#### 7 科学探究科の指導の充実と第2期 ISEP (Ichiko Science Education Program) の円滑な実施

- (1) 新体制による科学探究科及び第1学年普通科を対象とした第2期 ISEP 初年度計画分の円滑な実施
- (2) 課題研究の充実 及び 理数科研究発表会、科学技術コンテスト等への積極的な参加
- (3) 第二期 ISEP の次年度計画分に向けた検討・準備
- (4) 少人数 及び 習熟度別指導（理・数・英）の工夫 並びに I C Tを活用した指導教材の研究開発

(補足)

I 教育目標 H29 年度に同じ

II 重点目標 H29 年度に同じ

**9つ(3×3)の場面や機会を意識して**

<p>(生徒の姿)</p> <p>生徒一人ひとりの自立(自分の力を発揮して人の役に立つ人間になること)に向かって、未来起点の思考と日常の凡事の徹底により(未来と現在を往還し)、高校生活(3つのライフ:学習、部活動、学校行事等)を通して、3つの資質・能力(自己有用感、視野の広さ、主体性)を、生徒一人一人自らが(自覚をもって)育てるようになる。</p>	<p>(教職員、保護者、学校関係者等の支援)</p> <p>生徒一人ひとりの自立(自分の力を発揮して人の役に立つ人間になること)に向かって、未来起点の思考と日常の凡事の徹底により(未来と現在を往還し)、高校生活(3つのライフ:学習、部活動、学校行事等)を通して、3つの資質・能力(自己有用感、視野の広さ、主体性)を、生徒一人一人自らが(自覚をもって)育てるように、皆で支援する(働きかける)。</p>
---	--

\*平成30年度は、各教科、特別活動、SSH活動、各部活動において、この重点目標をどのように実現するかを明確化、共有化し、実践することで、市高ランドデザインの一層の意識共有及び具現化を図る。

III 具体的目標と全体の取組

1 基本的な生活習慣の確立

- (1) 特に「挨拶」について、その意味を再度生徒、教職員で確認し、充実させる。
- (2) H29 に同じ。特別支援教育の視点からの配慮事項は、職員の共有のもとに実施。
- (3) 特に、盗難、SNS上のトラブルを防止するべく、規範意識及び人権意識の醸成に力を注ぐ。
- (4) H29 に同じ。

2 特別活動、部活動等への主体的な取組

- (1), (2), (3), (4) H29 に同じ。
- H30 重点目標の実現のため、特別活動、部活動のねらい、計画を明確化し、意識して取り組む。

3 開かれた学校づくり、安心・安全な学校づくりの推進

- (1) 「土曜授業の公開」をH29「4(3)」から移動。昨年に引き続き、HPによる広報等、積極的に情報発信を行う。
- (2) 学校施設管理体制を確認する。大規模災害時対応を見直す。
- (3), (4) H29 に同じ。
- (5) 重要な取組の充実の一方で、学校行事等の検討等を行い、多忙感を軽減したい。安心・安全な学校づくりの土台。

4 確かな学力の育成、学力保障の推進：H29「土曜授業の検証・改善及び円滑な実施」は、解決済により項目削除

- (1) 新設。授業進度、教材、試験、評価、課題等において、生徒から見て学校の方針が伝わるような統一的な指導、そのための学年教科リーダー(国数英)を核とした教科担当教員による協働体制の構築。
- (2) 新設。昨年度に続く大きな課題。文武両道を具現化するための生活習慣・学習習慣確立のための指導を充実させる。
- (3), (4) H29 に同じ。

5 これからの時代を生き抜く人材の育成

- (1) 新設。「解決困難な課題に立ち向かうことのできる人材」は、第2期SSHの研究課題。SSH活動は、アクティブ・ラーニング(AL)の典型。各教科等への波及を期待する。この項目の評価は、SSH事業評価を用いる。
- (2) H29 に同じ。都市立5校のユニットによるアクティブ・ラーニング(AL)の研究、授業改善。ALの評価、観点別評価等、評価について継続研究。
- (3) 新設。SSH活動、AL、新テストへの対応。
- (4) 新設。

6 キャリア教育(進路指導)及びリーダー育成等の推進

- (1) ホームルーム活動内で実施するBFプランについて初年度の実施(1年)、次年度の内容を検討し精選・充実。
- (2), (3), (4) H29 に同じ。

7 科学探究科の指導の充実と第2期ISEPの円滑な実施

- (1) 新設。第2期ISEP初年度の実践(SS探究I、課題研究の充実、評価方法の開発、小中学校との連携等)
- (2) とりわけ、課題研究の質を向上させ、各種コンテストへの積極的なチャレンジを図る。
- (3) 次年度のプログラム実施(SS探究IIなど)への準備。
- (4) H29 に同じ